

令和 4 年 5 月 1 日現在

機関番号：12608

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K20564

研究課題名(和文)旅行者の地域づくりへの参加を促すスタディツアーの研究

研究課題名(英文)Study Tour for Promoting Tourist's Participation in Community Development

研究代表者

Ho Quang Bach (Ho, QuangBach)

東京工業大学・工学院・助教

研究者番号：90802893

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：地方部は地域づくりの担い手不足という課題を抱えている。これを解決する手段として、本研究はスタディツアーを通じた地域課題への関与意欲の醸成に着目した。定量分析の結果から、ツアーにおける学習プロセス(暗黙的学習と明示的学習)が学習成果(知識獲得・自己効力感)に与える影響および学習成果が学習目標(地域課題への関与意欲の醸成)に与える影響を明らかにした。地域課題への関与意欲を醸成するには知識獲得の方が自己効力感よりも重要であり、知識獲得は暗黙的学習によって促進される。だが、暗黙的学習以上に自己効力感の方が知識獲得を促進し、自己効力感は明示的学習によって促進されることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的貢献として、本研究は観光研究、地域研究、および教育研究の知見を統合して仮説モデルを形成し、学習プロセスと学習成果の二重螺旋モデルを構築した。この研究成果は各分野に新たな知見を加えることで、その発展に寄与する。さらに、本研究の提案する二重螺旋モデルはスタディツアーに限らず、多様なドメインに対する課題解決型学習に広く応用することが期待できる。

実務的貢献として、本研究の発見事項を用いてスタディツアーの学習体験を改善することで、地域づくりに参加する関係人口を増やし地域コミュニティの持続可能性を高めることができる。

研究成果の概要(英文)：Rural areas are facing the issue of a lack of people to take part in community development. As a means of solving this problem, this study focused on fostering a willingness to get involved in community issues through study tours. The results of a quantitative analysis revealed the effects of the learning process (implicit and explicit learning) on learning outcomes (knowledge acquisition and self-efficacy) and the effects of learning outcomes on learning objective (fostering willingness to get involved in community issues). Knowledge acquisition is more important than self-efficacy in fostering willingness to get involved in community issues, and knowledge acquisition is facilitated by implicit learning. However, self-efficacy is more important than implicit learning for knowledge acquisition, and self-efficacy is facilitated by explicit learning.

研究分野：サービスマーケティング

キーワード：観光 旅行者 スタディツアー 課題解決型学習 自己効力感 地域づくり シティズンシップ

## 1. 研究開始当初の背景

地方部は人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面している。そのため、観光先を回避するだけの交流人口を、地域づくりに参加する関係人口へと変革する観光施策が求められる。地域づくりへの参加意向を表す概念として、これまで住民の地域愛着が研究されてきた。一方、旅行者にとっての地域愛着とは観光先を選ぶ際の選好度を表す概念と捉えられてきた。交流人口から関係人口へと旅行者を変革するには、旅行者の地域づくりへの参加意向を表す概念としての地域愛着を同定し、その地域愛着の醸成を促す要因を明らかにする必要がある。

申請者のこれまでの研究から、交流を通じて知識を獲得することで、旅行者は地域のことを身近に感じる自分ごと化を促進し地域づくりへの参加意向を強めることが示唆される。そのため、旅行者が住民と濃密な交流をすることで新たな価値観を獲得するボランティアツーリズムは、旅行者の地域愛着を向上させ得る。しかし、これは長期滞在を必要とする場合が多く、且つ旅行者はツアー前から既に地域づくりへの参加意向が強い。そこで本研究は、旅行者が交流から学ぶという特徴を備えながら幅広い層が気軽に参加できるスタディツアーに着目する。ここでのスタディツアーとは、旅行者が住民と交流しながら地域の特色や課題について体験的に学習する観光形態を指す。具体的には、地域課題に関する住民の話を傾聴するとともに彼らと共同で空き家の改修や民藝の体験などをし、最後に旅行者同士がグループワークから地域課題の解決策を議論する形式のツアーが一般的である。都市部の居住者でも短期間で気軽に参加できるため、修学旅行や企業研修旅行などにも活用されている。しかし、これまでの観光学では交流を通じた旅行者の学習が軽視されてきたため、学術的な知見が乏しい。旅行者の地域づくりへの参加を促すツアー中の学習に関する研究は、ほぼない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、スタディツアーにおける学習が旅行者の地域課題への関心向上に与える影響を明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

文献調査を通じて、仮説モデルを構築した。その後、仮説モデルを実証するために質問紙調査を実施した。

## 4. 研究成果

文献調査から、学習プロセスの差異が学習成果に影響を与える可能性が高いにも関わらず、十分に研究がなされていないことがわかった。そこで、集団の知識共創モデルである SECI モデルを援用し、スタディツアーの学習プロセスを無意識的に他者の発言や行動から学び取る暗黙的学習と学習プログラムに明示された学びである明示的学習の二つに分類した。学習成果は先行研究から、地域課題に知識の獲得と学習に対する自己効力感を取り上げた。学習目標として、地域愛着概念を社会への関与意欲であるシティズンシップ概念と統合し、地域課題への関与意欲を示すシティズンシップ概念を用いた。最終的に、学習プロセスが学習成果に与える影響および学習成果が学習目標であるシティズンシップに与える影響を示す仮説モデルを構築した。

スタディツアーを利用する修学旅行生を対象に質問紙調査を実施し、2441 名からの回答を得た。共分散構造分析を実施し、仮説モデルを検証した。分析結果から、図 1 に示すように、暗黙的学習は自己効力感よりも知識獲得を促進する。反対に、明示的学習は知識獲得にあまり影響し

ないが、自己効力感を促進する。これに対し、自己効力感は暗黙的学習以上に知識獲得を促進する。だが、自己効力感は直接的にはあまりシティズンシップを促進せず、知識獲得が強くシティズンシップの醸成に強い正の影響を与える。

学術的貢献として、本研究は観光研究、地域研究、および教育研究の知見を統合して仮説モデルを形成し、学習プロセスと学習成果の二重螺旋モデルを構築した。この研究成果は各分野に新たな知見を加えることで、その発展に寄与する。さらに、本研究の提案する二重螺旋モデルはスタディツアーに限らず、多様なドメインに対する課題解決型学習に広く応用することが期待できる。

実務的貢献として、本研究の発見事項を用いてスタディツアーの学習体験を改善することで、地域づくりに参加する関係人口を増やし地域コミュニティの持続可能性を高めることができる。観光事業者はシティズンシップの醸成に繋がる知識獲得を促進するために、プログラムに明示されない暗黙的学習についてもデザインすることが重要である。

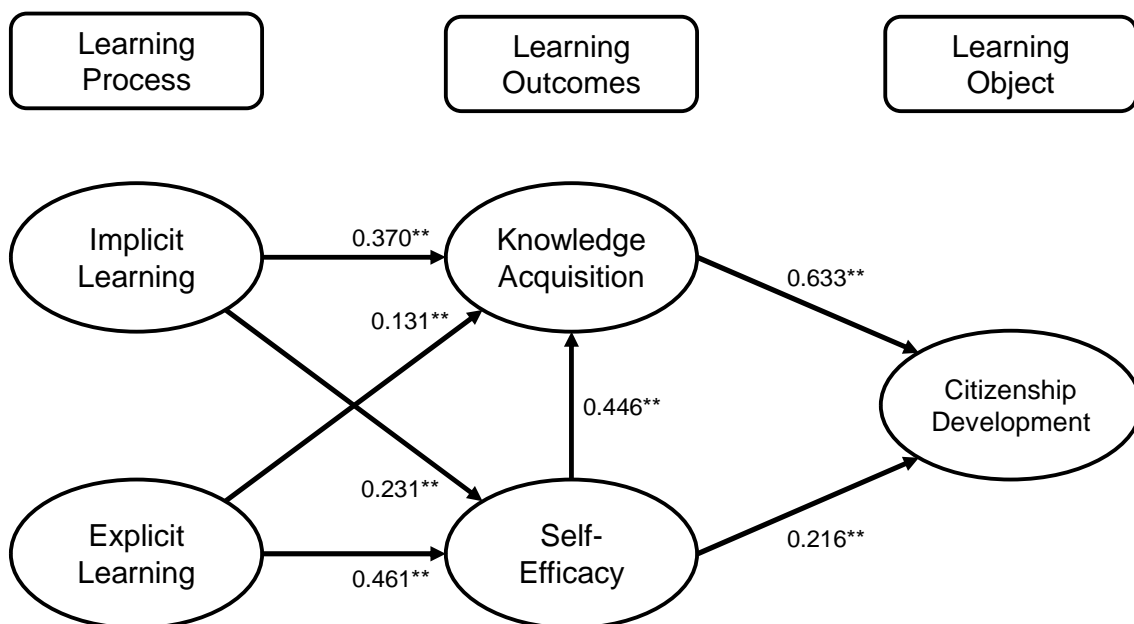


図1 学習プロセスと学習成果の二重螺旋モデル

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Ho Bach Quang, Inoue Yuki	4. 巻 12
2. 論文標題 Driving Network Externalities in Education for Sustainable Development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 8539 ~ 8539
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su12208539	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Ho Bach Q.	4. 巻 13
2. 論文標題 Effects of Learning Process and Self-Efficacy in Real-World Education for Sustainable Development	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 403 ~ 403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su13010403	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Ho, Bach Q. and Shirahada, Kunio	4. 巻 32
2. 論文標題 Barriers to Elderly Consumers' Use of Support Services: Community Support in Japan's Super-Aged Society	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Nonprofit and Public Sector Marketing	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10495142.2019.1589625	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 青池孝, ホーバック, 原辰徳, 太田順, 倉田陽平	4. 巻 8
2. 論文標題 観光サービスにおける旅行者の人込み許容度の変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 サービス学会第8回国内大会予稿集	6. 最初と最後の頁 B-4-03
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ホーバック	4. 巻 8
2. 論文標題 サービス交換と社会のWell-Being	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 サービス学会第8回国内大会予稿集	6. 最初と最後の頁 0S-4-01
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根本裕太郎, ホーバック	4. 巻 8
2. 論文標題 Well-Beingを物語るサービスデザイン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 サービス学会第8回国内大会予稿集	6. 最初と最後の頁 0S-4-03
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ホーバック, 安部敏樹	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 日常からの逃走: 観光のまなざしとウェルビーイング	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 サービソロジー	6. 最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ho Bach Quang, Shirahada Kunio	4. 巻 31
2. 論文標題 Actor transformation in service: a process model for vulnerable consumers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Service Theory and Practice	6. 最初と最後の頁 534 ~ 562
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JSTP-04-2020-0083	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<http://jptsr.net/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------